

本間 崇 教

スポーツ産業を俯瞰的に理解して、産学連携で研究調査し、現場、地域に貢献したい

スポーツビジネス、スポーツマーケティングを研究している本間崇教先生は、地域に根ざした教育、研究活動ができる環境を魅力的に思い、松本大学で教鞭をとることになった。現場や地域に貢献、還元することを目指して、地元のプロスポーツチームと連携し、研究調査を行っている。

取材構成／和田悟志 協力／松本大学

スポーツの価値を高める、伝えるための方法を学ぶ

私が専門にしているのは、スポーツビジネス、スポーツマーケティングという分野です。高校生にはなかなか馴染みのないワードかもしれませんが、簡単に説明するならば、スポーツの価値を高める、あるいは、伝えるための方法を学ぶ学問です。

スポーツ選手は、自身の競技力をどんどん高めていって、それを仕事として生きていく術にしています。ただ、それがビジ



ネスとして成立するのは、選手のプレーを見たい人がいて、所属するチーム、そのチームが試合を行うリーグがあるから。さらには、トレーナーや栄養士、施設の維持管理をする人など、いろんな仕事複雑に絡み合っています。スポーツ業界が成り立っているのです。シンプルに言えば、スポーツで稼ぐ術を学ぶ、学問とも言えます。

私は、大学2年の時に受講した講義をきっかけに現在の専門分野に興味を持ち始めました。そして、スポーツ産業を俯瞰的に

に理解したいと思い、研究者を志し、主にスポーツ観戦者の心理や行動を研究しています。私自身は小学校から高校の途中で野球をやっていました。小さい頃から野球だけでなく、プロレス、ラグビー、バスケットボールなど様々なスポーツを父に連れられて見に行っていました。そういった原体験が今の仕事の関心につながっています。

松本大学に来たのは、タイミング良く募集が出ていたのもありますが、今後のキャリアを考えると、地域に根ざした教育、研究活動ができる環境として松本大学や松本市が魅力的だったことが大きいです。実際に、松本市にはサッカーの松本山雅FCがあり、長野県内には野球の信濃グランセローズ、バスケの信州ブレイブウオリアーズ、バレーのVC長野トライデン

ツといったプロスポーツチームがあります。松本に来たばかりですが、縁あって、松本山雅FCさんが立ち上げた総合型スポーツクラブのNPO法人に関わらせていただいています。今後の展開としては、学生のインターンの場にするなどを考えています。私たちの分野は現場ありきの学問であり、机上で議論しているだけではどうしても現場との乖離が生まれてしまいます。そういった意味でも、産学連携という形で、現場の力をお借りしながら、一緒に様々な研究調査をしていきたいと考えています。それは松本大学のミッションとも合致していますし、それが現場の方々と地域に貢献、還元できる仕事になるのであれば、なおのことうれしいです。

産学連携して現場ありきで学ぶ

私はまだまだ環境を構築している段階ですが、松本大学には、こういったフィールドを構築し、地域に根ざしたゼミ活動をされている先生が多くいらっしゃいます。今後は私も、どんどん学生を巻き込んで、私の研究室にすればこんなことができるといふゼミの伝統を築いていきたいと考えています。

スポーツを通して他者貢献したいという思いを実現するために

本学では、健康運動指導士や保健体育の教員免許といった資格を取得できますが、スポーツビジネス、スポーツマーケティングには具体的な資格があるわけ

ではありません。この15年、20年ほどで日本国内でもスポーツ科学系の学びの環境が増え、研究者も増えましたが、同時にスポーツ産業の成長スピードも加速しているため、学術的に未開のテーマが数多くあります。この学問では、スポーツを通じて社会を良くしていく、ことや、人々を幸せにしていこう、ことを最終的なゴールとします。

学んだ学生には、プロスポーツチームのフロントスタッフとして働いている者もいれば、スポーツチームを持つグループ企業への就職を選んだ者もいます。将来具体的なになりたい職業が決まっているわけではないけれど、スポーツを通して、地域に貢献したい、人の役に立ちたい、などと、他者貢献したい思いを漠然と抱いている高校生に、ぜひ学んでほしいと思っています。一度、スポーツビジネスの扉を開いてみれば、いろいろな経験ができると思います。



PROFILE
本間崇教（ホンマ・タカノリ）1989年7月2日、新潟県出身。早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 博士後期課程単位取得満期退学。新潟経営大学経営情報学部スポーツマネジメント学科講師を経て、2022年より松本大学に赴任し、人間健康学部スポーツ健康学科で専任講師を務め、スポーツビジネス、スポーツマーケティングに関する講義およびゼミを担当している。